

琴兼洞—解説

義兵闘争史、独立運動史の
空白をうめる新史料！

秘
暴徒檄文集

抗日義兵闘争史料



緑蔭書房—刊行

苦と誇りを雄弁に語る民衆史料！！

銃をかまえる義兵



『秘 暴徒檄文集』について

琴秉洞

近代における日朝関係史上、未だ詳しく知られることのないものが少なくない。なかでも亡国寸前期における義兵闘争はその最たるものである。日本の併合は朝鮮駐劄軍司令部がまとめた『朝鮮暴徒討伐誌』によれば、日本の侵略に反対する一万七千余名の朝鮮義兵を殺戮したうえでの「併合」と称する軍事的完全占領であった。義兵戦死者は日清戦争時の日本側死者一万三千余名をしのぐものであった。文字通り義兵闘争という救国戦争であった。

日帝はこの義兵を「暴徒」と称してその「討伐」に明け暮れた。同時に日本為政者は、「火賊」「暴徒」の呼称で記録に残した。それも秘扱いで、一般国民の目に触れることはなかった。義兵史料で、秘扱いのものは少なく、『朝鮮暴徒討伐誌』や『暴徒史編輯資料』、それに高等警察関係等の史料が代表的なものであった。

解放後、義兵闘争の研究は盛んで史料の発掘も少なくない。しかしその多くは義兵将中の有名人士のものであった。このたび公刊される『秘 暴徒檄文集』に名を出す義兵将たちは、その二、三を除き、ほとんど無名の人物たちである。集められた檄文類の多くは居酒屋の壁や郡内、里内の各地に貼付されていたものである。その多くはいわば草莽の義兵将たちで、安重根のような義兵出身の抗将たちの層の厚さをまざまざと実感させてくれる。また、檄文の格調の高さは暴徒呼ばわりする日本侵略者の品性の卑劣さを逆に浮彫りにしてやまないものがある。

刊行にあたって

緑蔭書房

一九〇七年、日本の乙巳条約(保護条約)締結の強要による国家存亡の危機に対し、朝鮮各地で決死的な抗日義兵闘争が起こった。闘争はとくに軍隊の強制的解散を命ぜられた将校・兵士を中心に学生・農民も加わって、韓国併合(一九一〇)まで続いた。抗日義兵闘争は強大な日帝の軍事力におさえられたが、植民地期朝鮮における反日武装闘争の基盤となった。

『秘 暴徒檄文集』は暴徒即ち義兵が朝鮮各地に散布した各種檄告文・通告等を収集し、日語訳して内部史料として印刷に付したものとされる。発行所・発行年月日とも記載されていないが、檄文散布の時期(一九〇七)〇九)や同時期に編輯された朝鮮統監府警務局編輯『暴徒二関スル編冊』から、併合直前に警務局から出されたものと推察される。檄文は全部で九六篇、内容ごとに七つに分類されている。そのほとんどが新史料で、義兵闘争史、独立運動史の空白をうめる貴重な史料である。

義兵の思想と行動を知る史料

趙景達 (千葉大学文学部助教授)

貴重な史料が刊行されることになった。義兵運動に関する史料は、けつして少ないものではなく、『朝鮮暴徒討伐誌』をはじめ、日本側の史料にも注目すべきものがあつた。今回刊行される『秘 暴徒檄文集』も日本側の史料に属するものだが、日本側が義兵の発した檄文や通告文などを分類、整理したところに意味がある。おそらく統監府警務局あたりが、マル秘文書として関係各機関に頒布したものであろうが、この檄文集によって義兵の思想と行動が概略的につかめるようになっていく。当時は大韓ナショナリズムともいふべき思想潮流が形成発展していく時期であり、そうしたものの発露こそが義兵運動にほかならなかつた。この史料から読者は、衛正斥邪思想をベースに置きながらも、民族国家の観念に目覚めた義兵の雄叫びと悲壮な姿を明瞭に知ることができるに違いない。

日韓併合の欺瞞性と朝鮮民族の痛

秘 暴徒檄文集の主な目次より

- 第一類 一般公衆二対スル檄告
 - 全国同胞ニ布告スル文
 - 大韓国民一般ニ泣告スル文
 - 京郷解隊軍卒ニ告クル文
- 第二類 郷校ニ対スル檄告
 - 光州校中ニ敬通ス
 - 謹テ各域郷校ニ檄ス
- 第三類 同盟ニ与フル書
 - 同盟ニ諭ス文
 - 各隊義陣大将ニ輪示スル文

檀君四十二百四十年七月三日（明治四十年）

二 全国同胞ニ布告スル檄文 倡義士 金鳳基

嗟哉カ二十萬同胞ヨ嗟哉カ二十萬愛國ノ同胞ヨ二十里ノ
 金甌山河ハ皆進賊ノ手ヲ以テ七ホシ四十載ノ青嶺産業ハ
 悉ク黥虜ノ口ニ入レリ仲觀スレハ蒼々タルモノ我カ大韓
 ノ天ニ非ス俯視スレハ茫茫タルモノ我カ大韓ノ地ニ非サ
 ルナリ悠々タル萬古ニ慨嘆窮リテ漠々タル全球ニ生治ス
 ヘキ其尚冥然猶然トシテ之ヲ覺悟セサランヤ公孫程嬰或
 ハ節ニ死シ或ハ孤ヲ存シ子胥伍尚一ハ難ニ赴キ一ハ仇ヲ
 報フ其ノ生死ハ同シカラスト雖其ノ心ハ即チ一ナリ死者
 無クンハ以テ前途ヲ保チ難シ故ニ予ハ全国同胞ノ悉ク血
 ヲ流スコトヲ願ハサルナリ但シ茲ニ二ノ大問題アリ此即

第六類 日本政府及官民ニ對スル檄文

一 謹テ伊藤統監ニ告クル文

大韓帝國倡義士金鳳基謹テ

大日本帝國執監伊藤博文閣下ニ告ク虎狼ニ向テ法ヲ説
 ハ固ヨリ無益ナルヲ知り蛇蝎ヲ誘フニ悔改ヲ以テスル
 是實ニ痴想ナリ然レトモ十數年ノ歴史ヲ繕キ幾年未ノ
 伏ヲ吟陳シ一ハ以テ貴國ノ不義ヲ責メ一ハ以テ閣下ノ
 詐ヲ詰リ一ハ以テ我輩大死ノ目的ヲ明カニセントス閣
 其レ暫ク首ヲ俯シテ之ヲ聞ケ責非ト我國トノ間ニ鏖ア
 モノ開闢以來ノ事ナラン然レトモ邊キ昔ハ姑ク蕙ヲ論
 ス丙子ノ年江華議約ノ時ニ於テ貴國ハ平等和親ノ實ヲ
 スル為メト云ヒ又ハ交趾隔離ノ患ヲ除カンカ為メト云
 俗約ヲ締結シ再ヒ和好ヲ厚フセントセシ以來凡ソ我年

- 第四類 全品徵発及物資搬出禁止令
 - 棒税ヲ禁スルノ広告
 - 穀物放売ヲ禁遏スルノ令
- 第五類 韓人官吏ニ対スル通告
 - 巡檢通辭ノ輩ニ示ス
 - 懷仁ノ日兵及韓兵ニ与フ
- 第六類 日本政府及官民ニ対スル檄文
 - 謹テ伊藤統監ニ告クル文
 - 倭ノ十罪ヲ數フ
- 第七類 其ノ他
 - 各国領事ニ告クル文
 - 大皇帝陛下ニ上奏スル文

琴秉洞 解説

秘暴徒檄文集

抗日義兵闘争史料



体裁 A5判 / 上製クロス装

定価 15,450円

刊行 95年5月刊

ISBN4-89774-220-X C3022

戦後の朝鮮史に関する

単行本・論文(総二三、〇〇〇件)を網羅、

戦後日本の朝鮮史研究のあゆみがこの二冊に!

戦後日本における朝鮮史文献目録

1945 ~ 1991

戦後の朝鮮史研究をリードした

「朝鮮史研究会」が七年の歳月をかけた結晶!

編集作業の開始からすでに七年、『戦後日本における朝鮮史文献目録』がようやく完成のはこびとなりました。この度の『文献目録』は戦後日本における研究動向を反映して、原始・古代以来の日朝関係史、東アジア史、近現代の在日朝鮮人史にかかわる成果を十分収録していることが大きな特色です。

本書は、朝鮮に関する論文・書籍を網羅的に拾いだし、試行錯誤をくりかえしながらひとつひとつ実物にあって確認するという、文字どおり研究会の総力をあけた膨大な作業の結実です。戦後日本における朝鮮研究のあゆみがこの一冊に反映されているといっても過言でなく、今後の研究にとって必携の書と自負しうる内容になっています。

朝鮮史研究会編

◆体裁 B5判・上製クロス装・総500頁
◆定価 9,700円

◆本書の特色

- 一、戦後(一九四五～一九九一)の朝鮮史に関する文献(日本国内で刊行されたもの、翻訳書も含む)を収録した唯一のもの。
- 二、収録件数は単行本三〇〇〇件、論文一〇〇〇〇件!
- 三、本文は8ボ2段組で著者名索引を付した。
- 四、単行本篇は、通史(一般)、部門通史(建築史、美術史、文化史等)、目録工具類(辞典、年表、目録等)、前近代(考古・古代、高麗、李朝)、近代、在日朝鮮人史、一般、論文集(記念論文集)、史料に分類。
- 五、論文篇は、大学・機関の紀要、学会誌、研究誌や一般雑誌等に掲載されたものを収録、分類は通史・史論目録・書誌・学界動向、前近代(考古・古代、高麗、李朝)、近代、現代、現代在日、一般、史料とした。

緑蔭書房

東京都板橋区板橋1-13-1
☎03(3579)5444

緑蔭書房 東京都板橋区板橋1-13-1 ☎03(3579)5444

表示価格はすべて消費税込みです

特約店